

感染性胃腸炎の流行とノロウイルス

厚労省 感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆33◆

▽感染性胃腸炎の流行の状況

感染性胃腸炎は、細菌またはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐（おうと）、下痢を主症状とする感染症で、毎年秋から冬にかけて流行します。

昨年（例年より早い時期から）流行が拡大しており、保育所、幼稚園などで集団感染事例が多く発生しています。

昨年秋から大流行しており、県では過去10年間で最も大きな流行となった平成18年を上回っています（グラフ参照）。昨年11月25日には、感染性胃腸炎の「警報」発令について、県庁が報道発表しました。

ノロウイルスは、主に乳幼児に急性胃腸炎を引き起こす代表的なウイルスで、重症度はほかのウイルス性胃腸炎よりも高いことが多いといわれています。

2011年から任意的に実施している腸炎の大部分は、ノロウイルスによるものと考えられます。

ノロウイルスの遺伝子型は、ノロウイルスには多くの種類があります。人に感染するのは、遺伝子群G1とG2が大部分です。さらに細

い分類として遺伝子型があり、遺伝子解析の進歩と普及によって、詳細な分析が可能になってきています。

過去、世界的に大きな流行が起きているのは、「G11.4」という遺伝子型です。この遺伝子型の特徴として、以下の特徴が指摘されています。

①ノロウイルスの遺伝子型は、結合できる組織血液型抗原の種類が多く、結合力も強いとされています。

②ノロウイルスは、世界的に感染性胃腸炎の大きな流行があり、奈良県でもその影響が見られました。2006年と2012年の秋から年末にかけて、過去10年間の平均に比べ、定点当たり患者数（※注）が非常に多くなっています。

この遺伝子型の特徴として、下のグラフで確認できます。

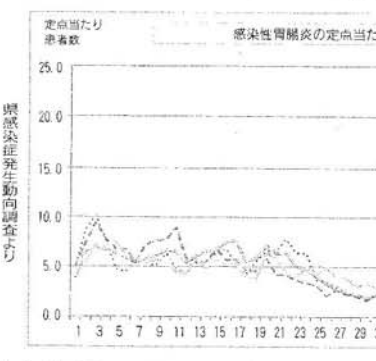
過去10年で最も流行

手洗い徹底で予防を

大流行の原因解明と今後の対策に役立つ情報を得るために、さらに詳細な研究に取り組んでいます。

▽感染性胃腸炎の予防

感染性胃腸炎の予防には、手洗いが重要で、外から帰ったとき、トイレを利用した後、調理前、食事の前には必ず石けんを使ってしっかり手洗いをしてください。ノロウイルスなどの病原体は熱に弱いので、調理器具や食器をしっかりと加熱することも有効です。



また、県保健研究センターが行っている遺伝子解析では、大部分がノロウイルスの遺伝子型G11.4であることが確認されており、他の府県でも同様の報告が見られています。

家庭内で、症状のある人がいる場合、二次

感染の予防のため、使い捨てのマスク（吐物（とぶつ）やと手袋をして、使い捨ては、素手でさわらぬの布やペーパー）を閉じて捨てましょう。

拭き取った後は家庭用漂白剤を100倍程度に薄めて、ペーパータオル等にしみこませて、広めの範囲を消毒し、しばらくおいて水拭きして下さい。

感染性胃腸炎の原因となる病原体には、アルコール系消毒剤や逆性石けんでは効果がな